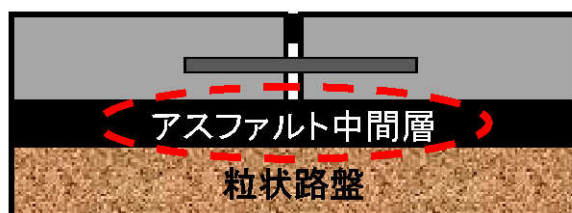


Q-0303 目地部が損傷しやすいことへの対策はありますか？

コンクリート舗装にとって目地部は弱点部となるが、適切な目地金物を適切な位置に設置して、適切な間隔に横収縮目地を設けることで、目地部の損傷を抑制することができる。20年以上供用したコンクリート舗装において、健全な状態で目地金物が機能していることが確認されている。

しかし、目地部から雨水が浸入すると、路盤によっては路盤材が噴出し、段差を生ずる原因となることが懸念されるので、目地を透して路盤に雨水が浸入しないよう目地部の維持管理を行うことが重要となる。目地材が流出した場合や、目地の開き幅が大きく目地材の充填が不十分な場合など、目地材の注入補修が必要である。また、ポンピング作用によって噴出しにくい路盤材料を用いることや、アスファルト中間層（表層と路盤の間に設ける厚さ数 cm のアスファルト混合物の層）を設けることで、雨水の浸入による目地部の損傷を抑制することができる。国道4号黒磯バイパスのコンクリート舗装ではアスファルト中間層が設置されており、供用25年後の調査において路盤の洗掘などの変状は認められていない。



舗装断面

アスファルト中間層の設置例